平成23年11月14日

平成２３年度
中国四国農政局事後評価技術検討会
～　国営土地改良事業等事後評価関係（第３回）～

議　事　録　（※公表版）

大木土地改良管理課長

それでは、定刻となりましたので、ただ今から国営等事業管理委員会、補助事業事後評価に係る中国四国農政局事後評価技術検討会を開催します。

まず、始めに、本技術検討会開催に当たりましては、原則公開とされておりますことから、１１月７日に、本日開催する旨をプレスリリースするとともに、当局ホームページにも掲載したところですが、傍聴等の申し込みはなかったことをご報告させて頂きます。

それでは、開催に当たりまして、事後評価に関する国営等事業管理委員会委員長の西田農村計画部長より挨拶申し上げます。

西田農村計画部長

永井委員長をはじめ、委員の皆さまには大変ご多忙の中、事後評価技術検討会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今回審査頂くのは、補助事業の事後評価についてです。時間は限られておりますが、忌憚のないご意見を頂ければと思います。

最近の農業情勢を一言だけお話させて頂きますが、世間ではＴＰＰの議論が活発となっています。総理からもＴＰＰの交渉参加に向けて関係国と協議に入るという表明がされております。今後は、協議の中身をしっかりと見守りながら、農家の方が意欲をなくさないようにしていきたいと考えております。ＴＰＰの総理の表明の前に、食と農林漁業の再生推進本部で、基本方針と行動計画が決定されております。これはＴＰＰの参加の有無にかかわらず、農業をとりまく昨今の状況、農家の高齢化や農業就業人口が減っているような様々な状況の中で、農業については再生していくという観点で、方向性が取りまとめられたところです。今後、７つの戦略にのっとりまして新規就農や農地集積を進めて効率的な農業を進め、６次産業化などを通じた高付加価値化、新エネルギーで農山漁村の資源の活用、災害にも強い農業インフラの整備など、これから平成28年までの５年間で実施していくことになっています。また、農政局においても本年度から本格導入している戸別所得補償制度の活用や中山間地域直接支払制度とか、今年度最終年となっていますが、来年度の概算要求で明らかとなっている農地・水の交付金についても第２期として農水省としては実施していきたいと考えていますが、こういう諸施策を活用しながら、６次産業化などをさらに進めることとしており、こういう点からもご指導頂ければと思います。

また、中国四国農政局は、面積ベースで85％が中山間地域となっておりまして、この中山間地域をどうするのかということが、他の地域に比べて非常に大事になっています。このため、中国四国農政局で中山間地域の活性化については常に話題にはなっていますが、活性化について０ベースからもう一度語っていこうということで、局独自でプロジェクトチームを立ちあげました。従来以上に幅広く、深い連携を進めているところであり、先生からも良い連携先や意見があれば教えて頂きたいと思います。

本日は先生方には大変恐縮ですが、補助事業ということで８つの事業で10地区あります。限られた時間の中で評価を頂くこととなりますが、この10地区について忌憚のないご意見をお願いします。本日はお忙しいところ、よろしくお願いします。

大木土地改良管理課長
～技術検討会委員５名の紹介、配布資料の確認、議事進行、会議資料の公開について説明～

永井委員長
それでは、早速、議事次第により進めたいと思います。では議事次第１の補助事業事後評価の概要について事務局より説明してください。

大木土地改良管理課長
～補助事業事後評価の概要について説明～

永井委員長
ただいまの件について、何か質問はありますか。無いようでしたら、議事次第２の平成23年度補助事業の詳細説明地区について、各課からお願いします。質問等は詳細説明地区４地区が終わってから一括でお受けしたいと思います。時間は１地区あたり７分～８分でお願いします。

各課長
農業農村整備事業等補助事業事後評価地区別結果書（案）により詳細説明対象４地区を説明

永井委員長
それでは、今説明のありました４地区につきまして、ご意見ご質問等をお願いします。

中道委員
島根県大谷地区について、農作物の生産量の変化の中で、そばの話が出てきますが、今後の課題や事後評価結果の項目では全く触れられていないがなぜでしょうか。そばについては評価されているんですよね。

久保農地整備課長
前段のところで、そばの作付が増えていると書いてあり、実際に作付も頑張っているところと聞いていますので、評価のところへのまとめ方について検討させてもらいます。

石丸委員
島根県大谷地区で、14ページの事業効果の発現状況のイ１①と15ページのエの事業実施による環境の変化の生活環境の記載内容がほとんど同じのでどちらかを整理したらいいのではないでしょうか。
次は岡山県豊田地区ですが、18ページの機械経費のところで、農業用水の水質改善により、水稲の倒伏がなくなりとありますが、これはこういう因果関係はいいのでしょうか、水質が問題で倒れるのですか。

福田地域整備課長
事業実施以前は、農業用水に含まれる窒素が多いことにより、成長しすぎて倒れるということです。

石丸委員
それと次の19ページに水稲の単収の比較をされていますが、事業実施前は３年間の平均データをとっていらっしゃるので、事後評価時点も出来れば平均した数値を取れれば出した方がいいのではないでしょうか。先ほども話があったとおり、年度によって収量に影響があるのでしょうから、出来れば、平均の方がいいのではないかと思いました。
また、21ページで未接続世帯が３割程度あると、これは事業主体の市はなんでかという理由を調べているのでしょうか。

福田地域整備課長
事業着手にあたり、個人負担について説明はしていますが、接続は各家庭の負担になります。実際見積もりを取ってみると、風呂の水や台所の水など排水回りの整備に思った以上に費用がかかることが分かり、負担できないということで、接続率が低い状況になっていると聞いています。市が財政支援が出来れば良いのですが、そういう状況にないということで、当該地域全体の環境改善のためには、全戸接続が必要であるということで、未接続世帯の理解を得るよう周知に努めていると聞いています。
事後評価のデータの扱いについては、検討してみます。

石丸委員
それで、課題のところで、意識向上を図りと書かれているということですか。理由がはっきり出たら、その理由と対策が妥当かどうかというのが分かるのですが、理由がよく分からなかったもので、お聞きしました。

中井委員
全般的に効果については分かるのですけれど、今後の課題については、もう少し丁寧に説明した方が良いという印象があります。そこで一つ質問なのですけれど、岡山県福田地区の６ページの今後の課題のところで、農業用排水路の施設の長寿命化とありますが、具体的に施設の長寿命化とはどういう意味か教えてほしいのですが。

有瀧水利整備課長
早め早めの対応をとることで、本来の耐用年数を延ばしていくことを現在やっています。一度に更新となりますと当初の経費と同じような額が必要になりますので、出来るだけ早めに対応することによって、トータルコストを安くできるということで管理をしていく。機能診断を行い、適時適切に対応するということで取り組んでいるところです。そういった施設の整備のやり方で、施設の長寿命化を図るということで、言葉として使わせてもらっています。

中井委員
10ページの島根県須田地区の課題にある生産組合の早期法人化と若年者の雇用というのは、一体化ということで考えてよろしいのでしょうか。

久保農地整備課長
生産組合を法人化して、その中で若いものを雇用していく必要があるということを課題として書かせてもらっています。

井上委員

島根県大谷地区について質問させてください。14ページで出荷施設や堆肥施設との輸送時間の短縮は分かりやすく整理して頂いていますが、その頻度はどのくらいでしょうか。１農家当たりで１日１回なのか、何回も往復するのか。奥出雲仁多米株式会社では、仁多米として売る条件として堆肥センターの堆肥を必ず使いなさいとの取り決めになっていたと思います。頻繁に移動しているのであれば、この農道は重要なんだと感じられるのですけれど、移動の頻度を把握しておられれば、追記してはいかがでしょうか。

また、14ページの２の①で、町内で生産される米のほとんどがカントリーエレベーターに運搬されているとありますが、私の記憶では、町内のほとんどの米をカントリーエレベーターがカバーしているというのは記憶と違っておりますので、ご確認をお願いします。

久保農地整備課長

輸送時間のところについては、代表事例を書かせて頂いておりまして、実際、先生がおっしゃるように各農家は頻繁に往復していますので、ちょっとデータとしてございませんが、累計してみるとその積み重ねで大きな時間差になり、効果は非常に大きいと思います。どの程度かは確認させてもらいます。

カントリーエレベーターにどの程度持って行っているのかについてデータを持っておりませんので、確認します。

永井委員長

14ページの事業効果の発現状況については、農道を作ってどういう発現効果が得られたかを書くべきものと思います。そういう観点でみると、イの２の①に地区の状況は書いてあるのですが、農道が出来たことによってどういう効果があったのかについては読み取りづらいので，事業効果を意識した書き方にしてはどうでしょうか。

久保農地整備課長

書き方や整理の仕方を再検討させてもらいます。

永井委員長

７ページの事業目的に道水路というのがあるが、こういう表現はあるのか。

久保農地整備課長

道路及び水路という意味です。

永井委員長

島根県須田地区の８ページですが、事業効果の発現状況に、平成24年度又は平成25年度の法人化を目指しているとありますが、これは効果の発現状況で「目指している」という表現はおかしいのではないでしょうか。

また、９ページの自然環境のところですが、事業実施前と比べて、蛍がよく見られるようになったとか、水質改善とか、これらは集落排水事業と絡んでいるのではないかと思いますが、基盤整備の事業で、用排水路を替えるだけで、水質改善というのは、どうかなと思います。

久保農地整備課長

内容を検討します。

中道委員
　今のところですが、先ほど経営体育成基盤整備事業と別事業として集落排水事業を実施しているとの説明があったが、この事業とどう関連づけていいのかというのが気になっています。

久保農地整備課長
　別の集落排水事業と相まって環境が良くなっていますと言う意味合いでありますけれども、この事業の直接的な効果ではないです。

永井委員長
　魚巣ブロックによって水質改善が起こったという意味合いにもとれるのではないでしょうか。

久保農地整備課長
　表現ぶりについて少し検討させて頂きます。

中道委員
　各事業地区とも全体的に地図を付けて頂いていますが、例えば岡山県の福田地区では、説明の中でＪＲの宇野線でなくて瀬戸大橋線だと訂正されていましたけれど、これはちゃんと修正しておいてほしいと思います。
　また、他の地区でも、地図がなんとなく分かりづらいので、できれば、例えば駅名を入れるなどもう少し地図でその地域か分かるような情報を追加してもらいたい。どこかというのが一番大事な情報だと思いますので、努力目標でいいのですが、できれば全体的にそういうふうにしてもらえればと思います。

有瀧水利整備課長
　地図については再度、情報が分かる形で整理させてもらいます。

永井委員長
　岡山県福田地区の２ページで、事業効果の発現状況において、たまねぎ、レタスの作付面積の拡大に努めているとありますが、これも事業効果の発現状況とは違うのではないでしょうか。ここには、かんがい排水事業をすることによってどういう効果があったかということを書くべきではないでしょうか。

有瀧水利整備課長
　ここは、目標としてこういう取組もやっているということをご紹介した方が良いのかなということで、参考までにＪＡで部会を作って一生懸命作っているというというところで実績は上がっていて、目標については補足的に説明するために記載していましたが、表現は考えさせて頂きます。

永井委員長
　他にご意見ございませんか、無いようでしたら、10分ほど休憩します。

永井委員長
　それでは議事を再開します。その他６地区の概要について事務局より説明をお願いします。

岡村農政調整官
　農業農村整備事業等補助事業事後評価地区別結果書（案）によりその他６地区を説明

永井委員長
それでは、質疑応答に入ります。ご意見ご質問等ございましたら、お願いします。

中井委員
資料２-１の３ページの香川県志度地区で､課題のところでは交流人口の増加を図っていく必要があると書いて、事後評価結果では、更なる交流人口の拡大が期待できると書いていますが、この関連が良く分からないのですが。

福田地域整備課長
記載内容に整合性が取られていない点がありますので、次回までに検討し、修正させて頂きたいと思います。

中道委員
愛媛県永長地区の事業実施による環境の変化の生活環境のところで、兼業をしながら営農することが容易となっているという表現はこれでいいのでしょうか。これは兼業を推進していると取られないでしょうか。

久保農地整備課長
表現を再検討します。

中道委員
山口県菊川北地区では、18ページの農作物の生産量の変化で、イノシシやシカなどの鳥獣害による生産意欲の減退と書いていながら、これは課題には鳥獣害については触れられていないがいかがなのでしょうか。

福田地域整備課長
鳥獣害対策は、この事業でも対応は出来たのですが、市の単独事業で対応しています。あえて課題に書かなくていいのかもしれないと思いますが、検討させて頂きます。

中道委員
39ページの広島県の広島中央２期地区のイの②のところで多目的活性化広場の交流人口が減ってきていますが、ここのところをどう扱うのかということですね。減っているので交流人口で考えても良いのかどうか、その対策を考えるかどうするのかが分からない。そこが気になります。

福田地域整備課長
この事業は交流人口を増やすことによって地域の活性化を図ることとしていますので、そういう意味では公園整備によって、交流人口が増えたということで評価が出来ると思います。ただ、年度を追って見ると、減少傾向にあるものですから、イベントの内容を工夫するとか、連携をしながら交流人口の拡大に努めていくことは必要なんだろうと思います。

中道委員
もうひとつ言うとその上の農村公園の表では、平成18年には1,830人利用していたのに、平成22年にはその３分の１くらいに減っていますよね。これはすごい減少なので、平成18年が特別なんだろうと思いますが、なんかそのへんもきちんと書かないと、交流人口の話を書くのであれば、その理由は必要だと思うのですけれど。

福田地域整備課長
　理由を追記します。

中道委員
　香川県志度地区の田園空間整備事業の効果は分かりづらいものなのだろうと思うのですが、ここのところで交流人口は出てこないですね。後ろの課題のところにはワイナリーなどと連携し、交流人口の増加を図っていくようなことが書かれているのですが、評価の中では交流人口については考えていないのでしょうか。

福田地域整備課長
　定量的に数字を取ることが難しかったのかもしれませんが、この事業でコミュニティ施設などを整備しているものですから、これらの施設の交流人口について定量的な数値が示せないか検討してみたいと思います。

中道委員
　あと、連携するとおっしゃっているので、これがどう連携すれば、この事業としての効果を発揮するのかが見えないまま連携すればいいみたいなことを書いてあるので、そこのところをもう少し検討した方が良いというふうに思いました。

井上委員
　広島県の広島中央２期地区で、事後評価結果欄に、施設の維持管理労力の軽減や耕作放棄地の抑制に寄与しているとあります。労力の軽減と耕作放棄地の抑制と言うのはなかなか捉えにくいのでしょうけれども、結果書を拝見する限り、労力の軽減と耕作放棄地の抑制の効果が見えづらいです。実際、大区画にして両方に寄与しているというのは容易に想像できるのですが、参考となるような数字や事例がありましたら、載せて頂けると分かりやすいと思いました。

福田地域整備課長
　検討してみたいと思います。

永井委員長
　徳島県喜来地区で、労働時間が短縮と書いてあり、この中で例えば、かんしょは2,934時間/haとありますが、１日10時間働くと293日分というような解釈でよろしいのでしょうか。水稲に比べて随分多いが。

有瀧水利整備課長
　聞き取りで書いていますので、内容を確認させて下さい。

永井委員長
　愛媛県永長地区で、７ページに要因の変化の水稲に係る労働時間がH17の計画となっているので、要因の変化に事後評価時点のデータでなく、計画のデータのみがあるのはまずいのではないでしょうか。

久保農地整備課長
　表現を検討します。

永井委員長

広島県広島中央２期地区で39ページに道路幅が拡幅されたということで数値が書かれていて、これは非常に良いことだと思うのですが、ただ農道関係については詳細地区についても、道路は広くなったという表現はあるのですが、道路幅が何ｍから何ｍになったかという表現はないんですよね。両側１車線だったのが、片側１車線になるということは交通の利便性がかなり違うと思うのですが、そのへんの利便性を書くだけでも大分違うと思うので、書いて頂ければと思います。

久保農地整備課長

追加したいと思います。

石丸委員

都市交流ということで思ったのですが、周防大島では、みかんサポータークラブというのが出来て、参加者が増加していますが、これは島外と考えていいんだと思いますが、都市農村交流は、地域もそうだし、外から来る人にもメリットがあるのが都市農村交流だと思うので、外から来る人の目線でメリットを上げるような工夫をされた方が良い。そういう意味で周防大島の参加者が増えているというのは外から来た人にもメリットがあるのだろうと思う。

また、観光施設であれば、県が観光動態調査などから観光客数を把握できるが、香川県志度地区のようなコミュニティ施設はオープンで無料ですから、人数はチェック出来ていないんだろうと思いますが、人脈を持っているようなＮＰＯなどの任意団体とかの動きで考えてみるといいのではないかと思います。

永井委員長

他にご意見はございませんでしょうか。ご意見が無いようでしたら、本日予定されておりました議事が全て終了しましたので、議事進行を事務局にお返しします。

大木土地改良管理課長

永井委員長大変ご苦労さまでした。本日は、委員の皆さまには大変お忙しい中、出席頂き、貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。

先ほど、頂戴しました意見等を踏まえまして、事務局の方で修正を行い、局内の委員会で調整したのちに、来年１月24日の技術検討会でご意見を頂いてから、本省担当部局へ提出したいと考えております。

また、本検討会の議事録についても、事務局で取りまとめ、各委員の確認を頂いた上で、当局ホームページになるべく速やかに掲載する予定としておりますので、ご了承願います。

それでは、以上をもちまして、平成23年度補助事業に係る事後評価技術検討会を閉会させて頂きます。ご苦労様でした。

（参考）

中国四国農政局事後評価技術検討会の概要

1　日時

平成23年11月14日（月）14:00～16:05

2　場所

岡山第２合同庁舎２階共用会議室C,D

3　出席者

【技術検討会】

石　丸　　　賢	中国新聞社論説委員
井　上　　憲　一	国立大学法人島根大学生物資源科学部准教授
永　井　　明　博	国立大学法人岡山大学大学院環境学研究科教授（委員長）
中　井　　雄　三	社団法人中国地方総合研究センター常務理事
中　道　　仁　美	国立大学法人愛媛大学農学部准教授

【中国四国農政局国営等事業管理委員会】

西　田　　　宏	農村計画部長（委員長）
太　田　　孝　弘	生産部次長
岡　山　　　雅	生産部生産振興課長
平　尾　　正　倫	生産部畜産課長
島　田　　篤　行	農村計画部農村振興課課長補佐
大　木　　昭　一	農村計画部土地改良管理課長
岡　本　　正　也	農村計画部資源課長
塩　澤　　賢　一	農村計画部事業計画課長
安　部　　伸　治	整備部設計課長
有　瀧　　昇　吾	整備部水利整備課長
久　保　　　弘	整備部農地整備課長
福　田　　一　宏	整備部地域整備課長
岩　下　　幸　司	整備部防災課長

【事務局等】

岡　山　　幸　彦	整備部水利整備課補助事業係長
植　田　　　章	整備部農地整備課農道係長
張　谷　　俊　二	整備部農地整備課経営体育成基盤整備係長
津　郷　　和　英	整備部農地整備課集落排水係長
岡　村　　卓　弥	農村計画部土地改良管理課農政調整官
淺　野　　弘　幸	農村計画部土地改良管理課事業効果係長

4　提出資料

・議事次第
・出席者名簿、座席表
・資料1　補助事業事後評価の概要
・資料2-1 平成23年度農業農村整備等補助事業事後評価地区評価結果概要
・資料2-2 平成23年度農業農村整備事業等補助事業事後評価地区別結果書（案）
　～技術検討会において詳細に説明する地区～
・資料2-3 平成23年度農業農村整備事業等補助事業事後評価地区別結果書（案）
　～その他評価対象地区～
・資料2-4 平成23年度農業農村整備事業等補助事業事後評価事業種の概要（参考）

注）中国四国農政局行政情報閲覧室（岡山第２合同庁舎４Ｆ）において閲覧できます。
（ホームページでの公開はしておりません。）